



開校を予定している 小中一貫校について

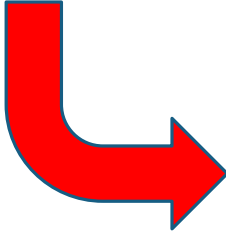
～子どもたちの、より良い教育環境づくりのために～



瀬戸市・瀬戸市教育委員会

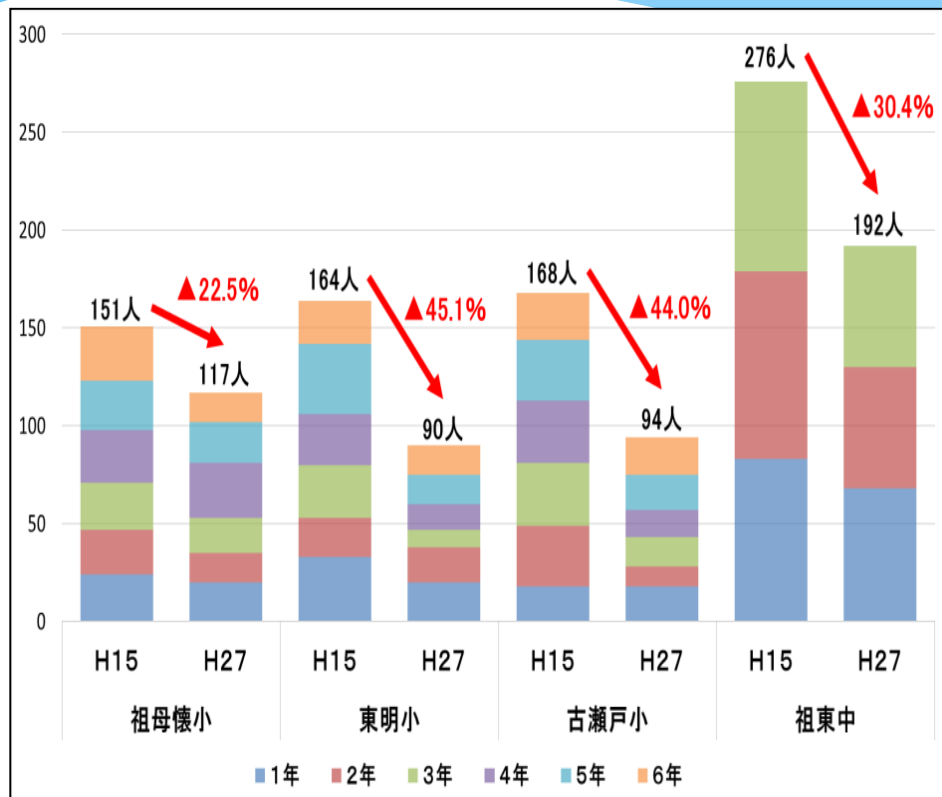
モデル地区における小中一貫校の新設

本山中学校区と祖東中学校区をモデル地区として、校区内の5小学校、2中学校を統合して、東公園の敷地を活用しながら、新しい小中一貫校の開校を目指します

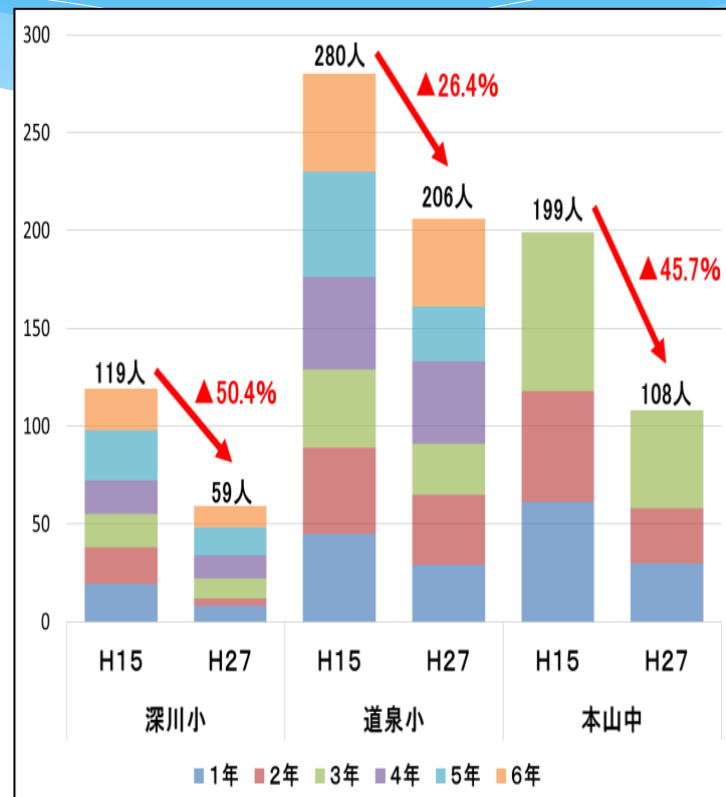


子どもたちの未来に向けて、瀬戸らしい教育を創造し、魅力ある学校づくりを目指します

モデル地区における児童生徒数の推移



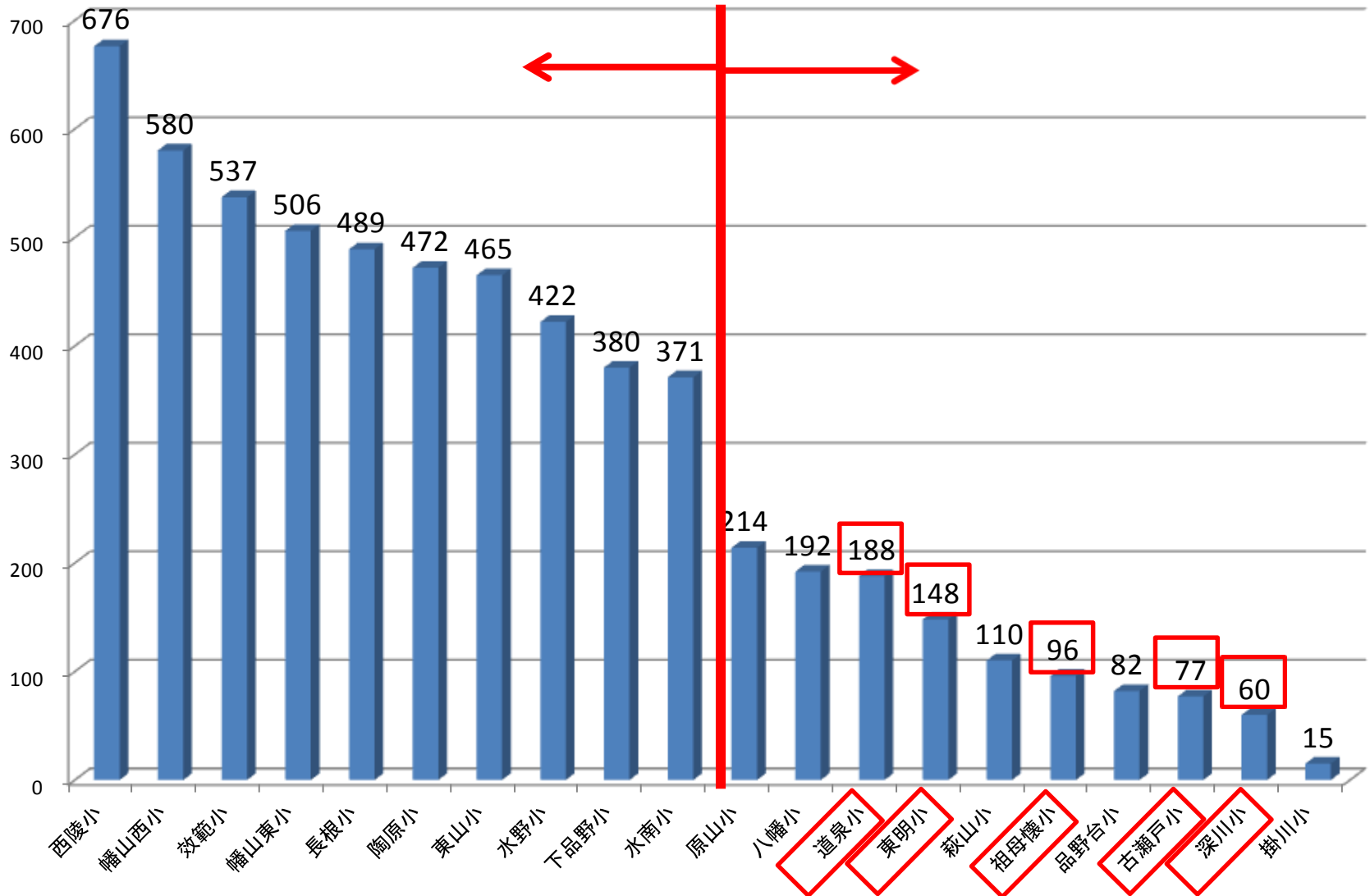
祖東中学校区



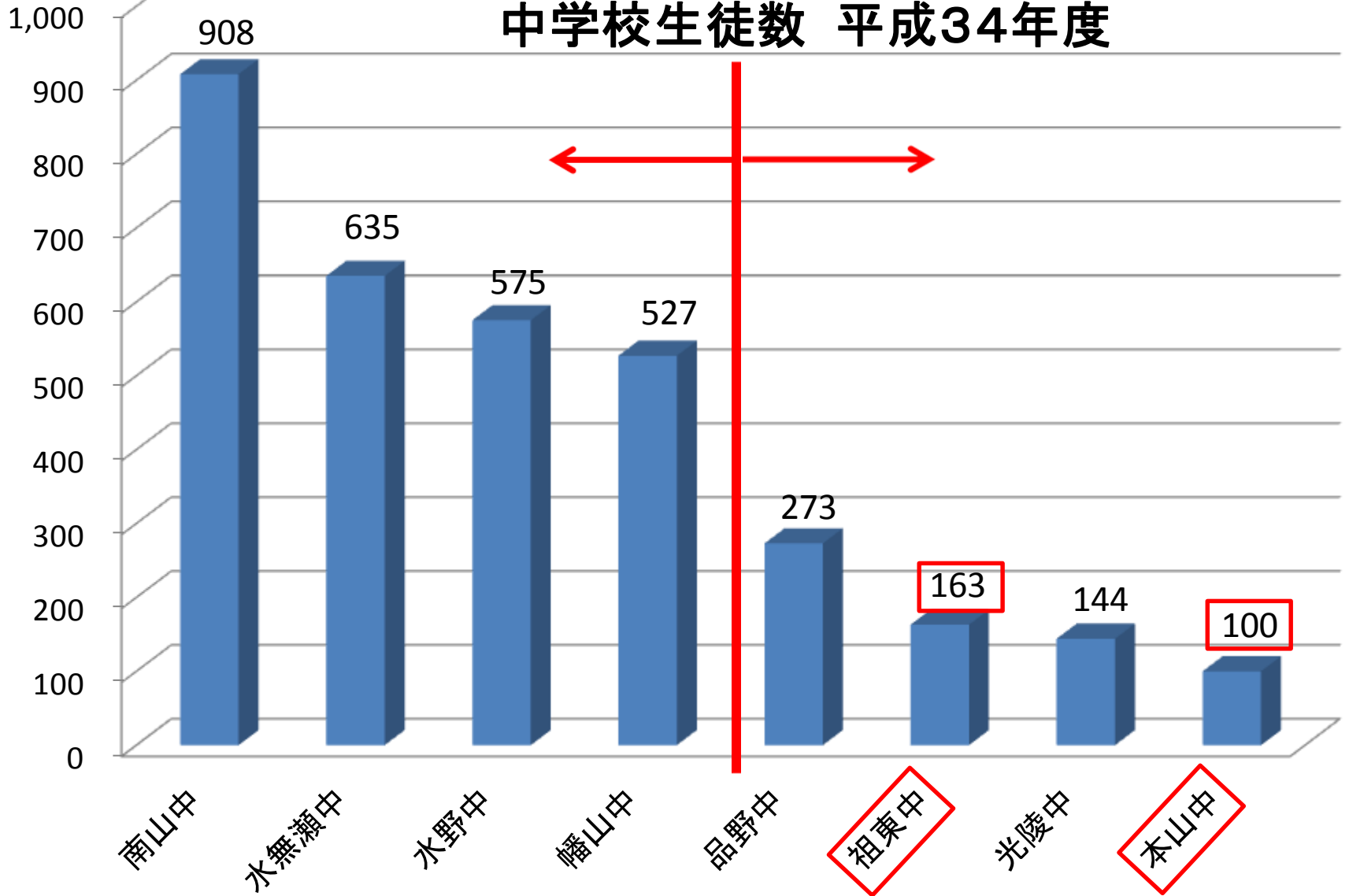
本山中学校区

児童生徒数が平成15年に比べ27年では20%～50%減少

小学校児童数 平成34年度



中学校生徒数 平成34年度



小中一貫校の新設による児童生徒数・学級数

(平成32年度)

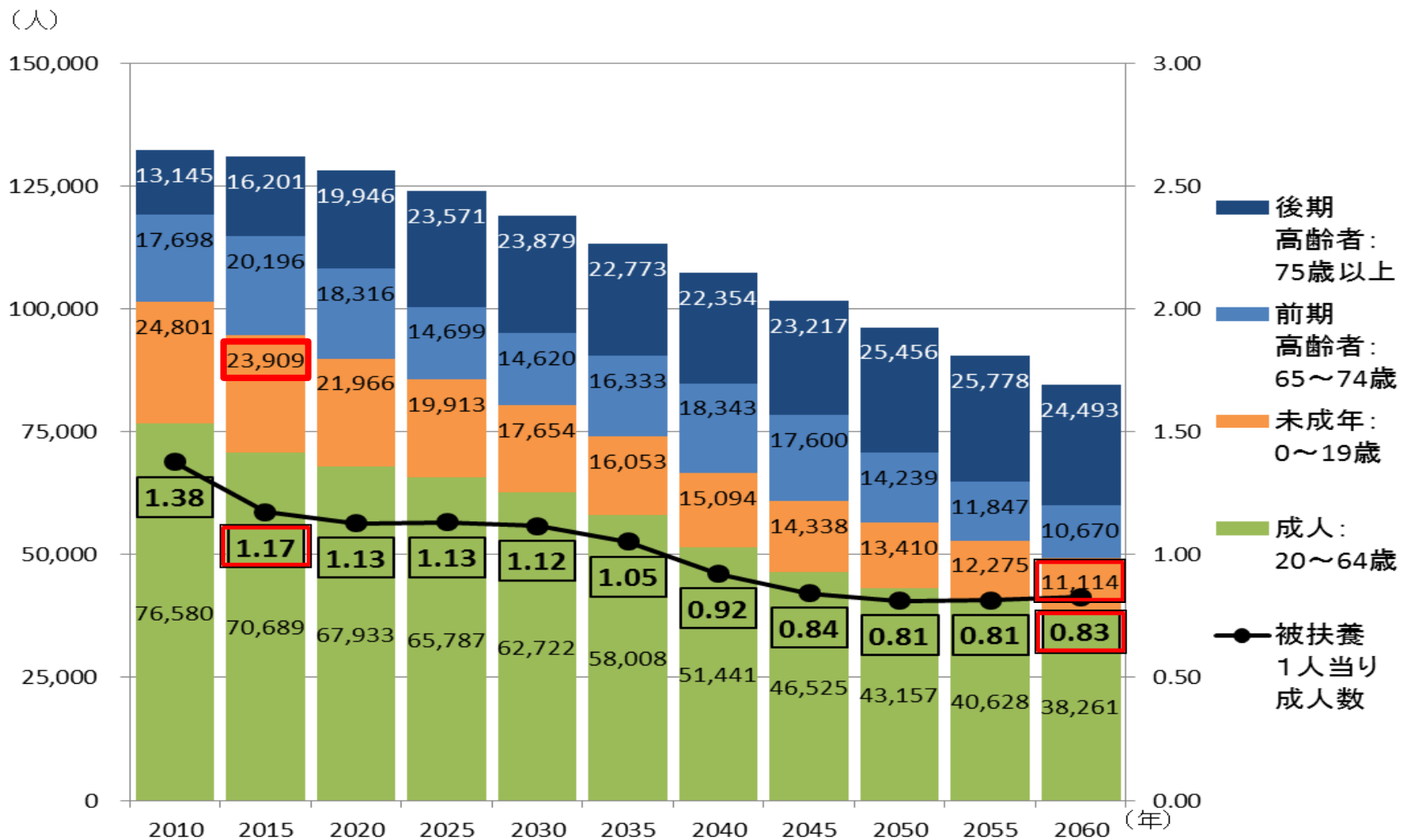
学校名	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
深川小	5	1	10	1	6	1	12	1	5	1	8	1	46	6
祖母懐小	20	1	20	1	16	1	14	1	23	1	20	1	113	6
道泉小	21	1	33	1	23	1	31	1	45	2	29	1	182	7
東明小	20	1	29	1	31	1	21	1	20	1	23	1	144	6
古瀬戸小	4	1	12	1	18	1	17	1	15	1	18	1	84	6
合計	70	5	104	5	94	5	95	5	108	6	98	5	569	31

統合校	70	2	104	3	94	3	95	3	108	3	98	3	569	17
-----	----	---	-----	---	----	---	----	---	-----	---	----	---	-----	----

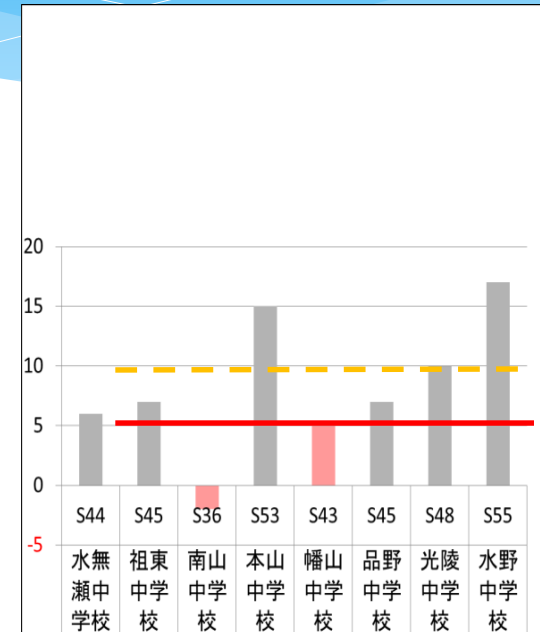
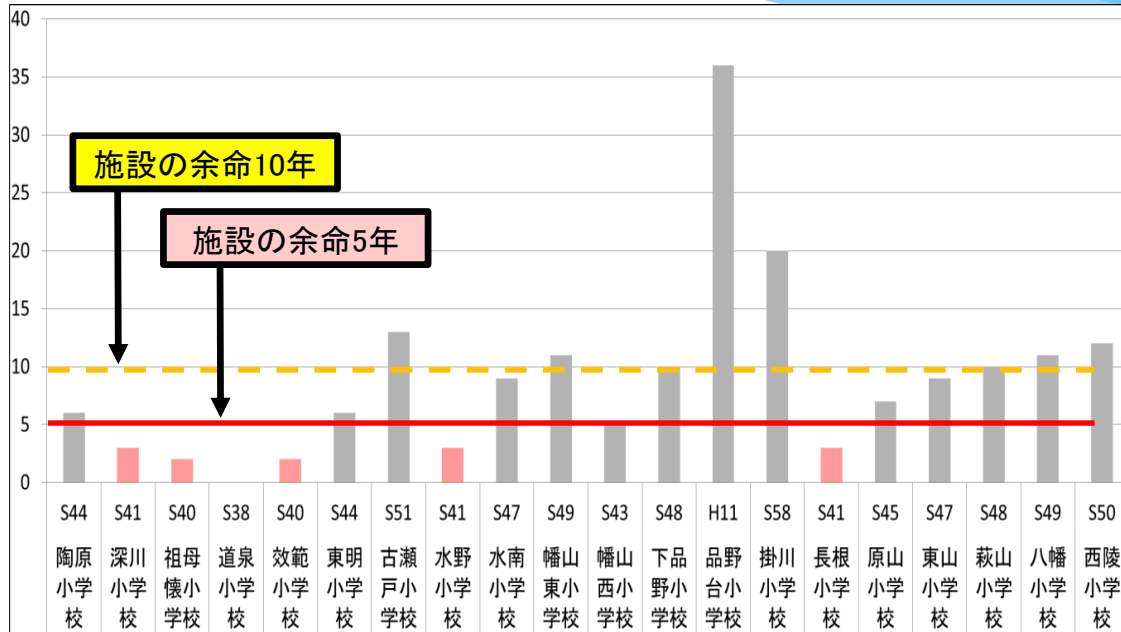
学校名	1年生		2年生		3年生		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
祖東中	40	2	40	1	52	2	132	5
本山中	31	1	26	1	45	2	102	4
合計	71	3	66	2	97	4	234	9

統合校	71	3	66	2	97	3	234	8
-----	----	---	----	---	----	---	-----	---

今後の瀬戸市の人口予測



学校施設の老朽化に対する現状と課題



学校施設の寿命を50年(RC造の耐用年数)と仮定すると、今後10年以内に8割(23校/28校)の学校施設が寿命を迎えることになります。

学校の小規模化によるメリット・デメリット

～メリット～

- 児童・生徒一人ひとりに教員の目が届きやすい
- 行事等で一人ひとりの活動機会をつくりやすい
- 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい

～デメリット～

- 卒業まで一度もクラス替えが出来ない
- 人間関係が固定化(序列化)してしまう
- 集団活動が活性化しない
- 部活動の選択の機会が減る
- 教科専任教員が配置できない

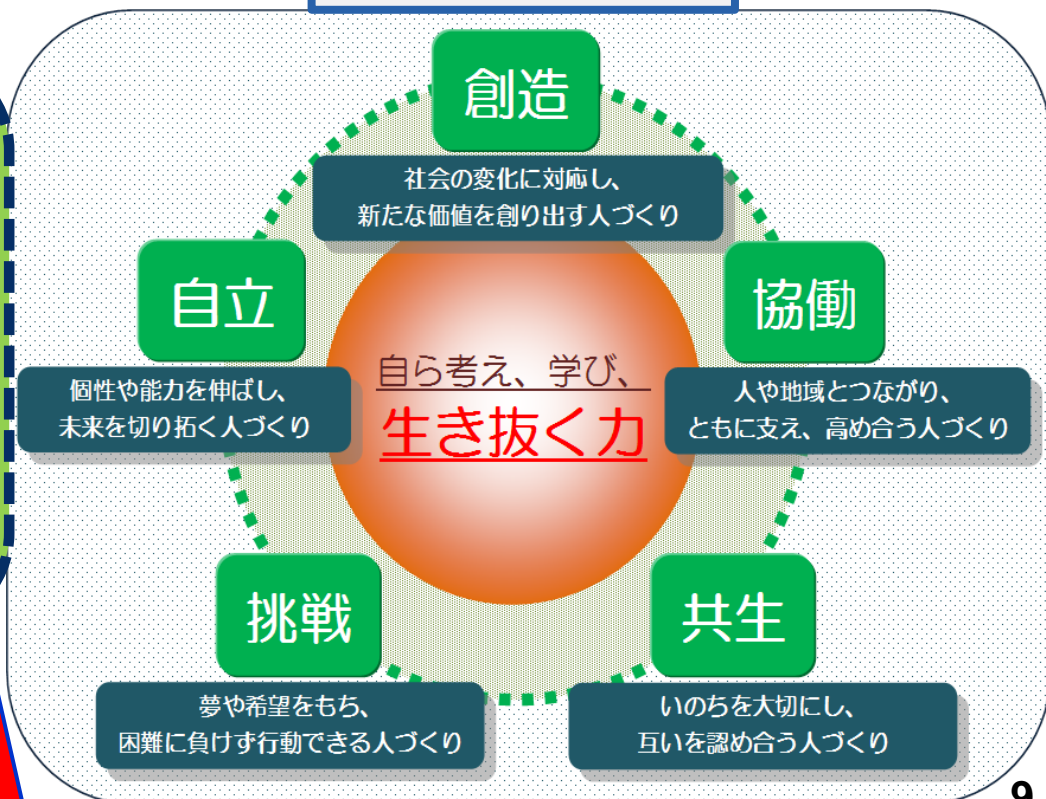
第2次瀬戸市教育アクションプランの位置づけ

基本理念を実現し、『自ら考え、学び、生き抜く力』を育むためには、一定の集団で活動することが必要

基本理念

- ◆すべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」
- ◆すべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」
- ◆すべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

基本的方向性



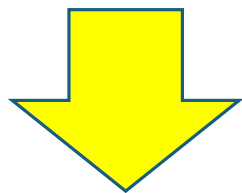
国(文部科学省)の動き

平成28年4月1日から、小中一貫教育を実施することを目的とする義務教育学校の制度が創設された

独立した小・中学校が義務教育学校に準じた形で、一貫した教育を施すことができるよう、小中一貫型小学校・中学校(仮称)も制度化する

国(文部科学省)の動き 2

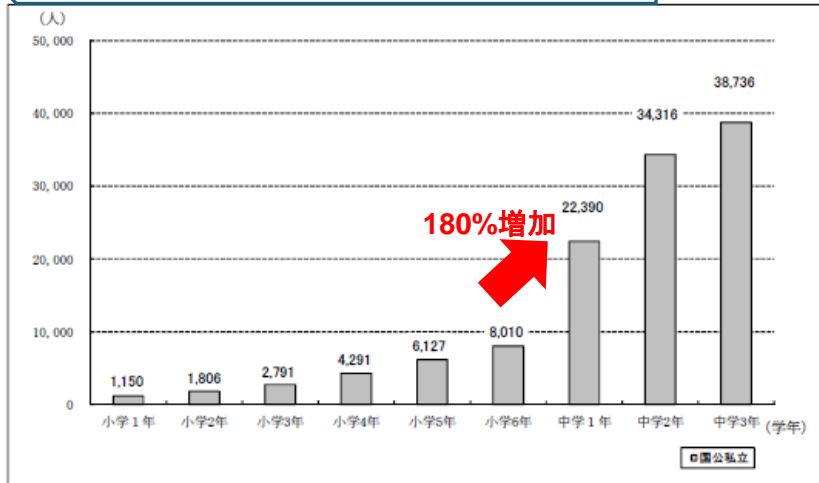
文部科学省は、「小中一貫教育・学校施設の複合化に関する施設計画・設計プロセス構築支援事業」を創設して、市町に委託する



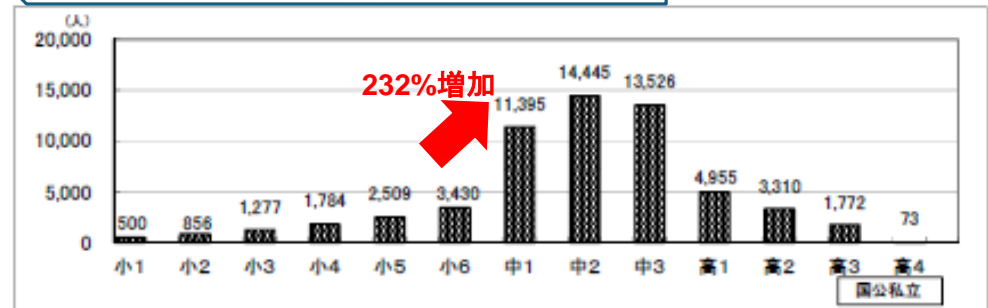
瀬戸市は当該事業にエントリーした結果、今年度瀬戸市他全国で2市が採択された

中一ギャップに起因する課題

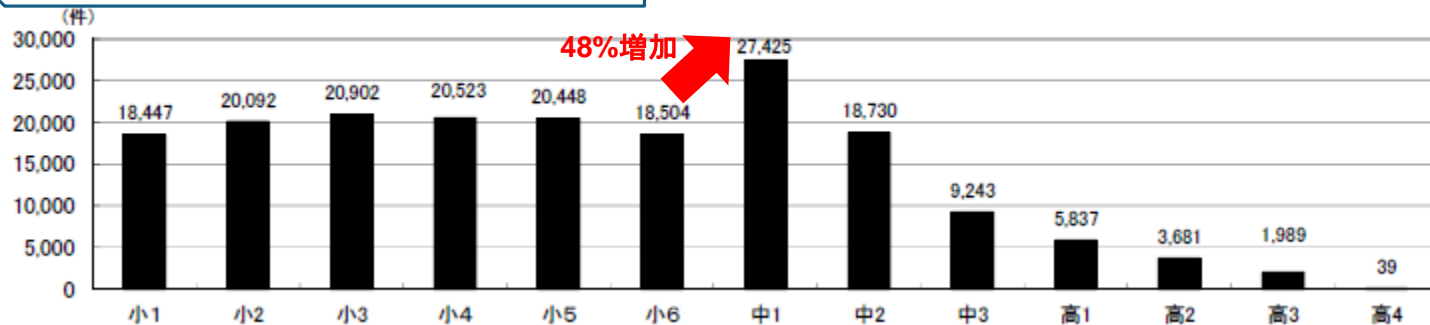
学年別不登校児童生徒数のグラフ



学年別加害児童生徒数のグラフ

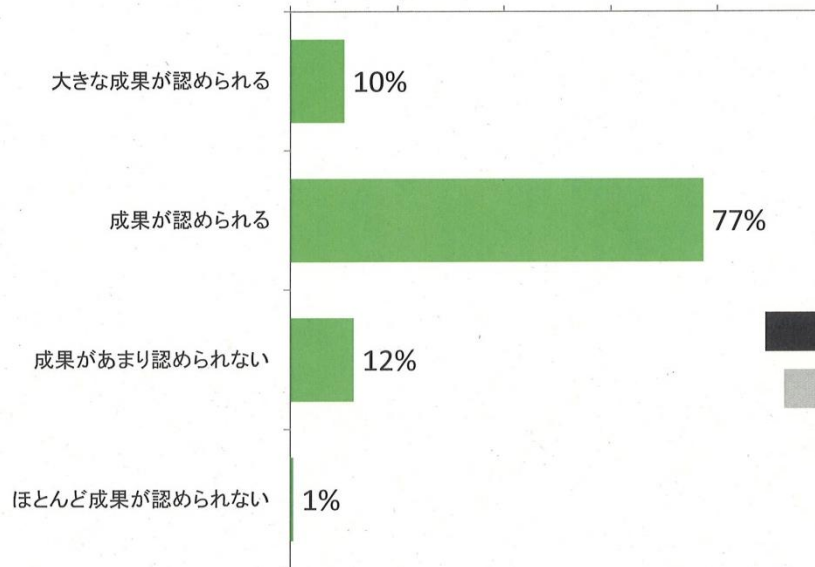


学年別いじめの認知件数のグラフ



小中一貫教育の評価

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価(成果)



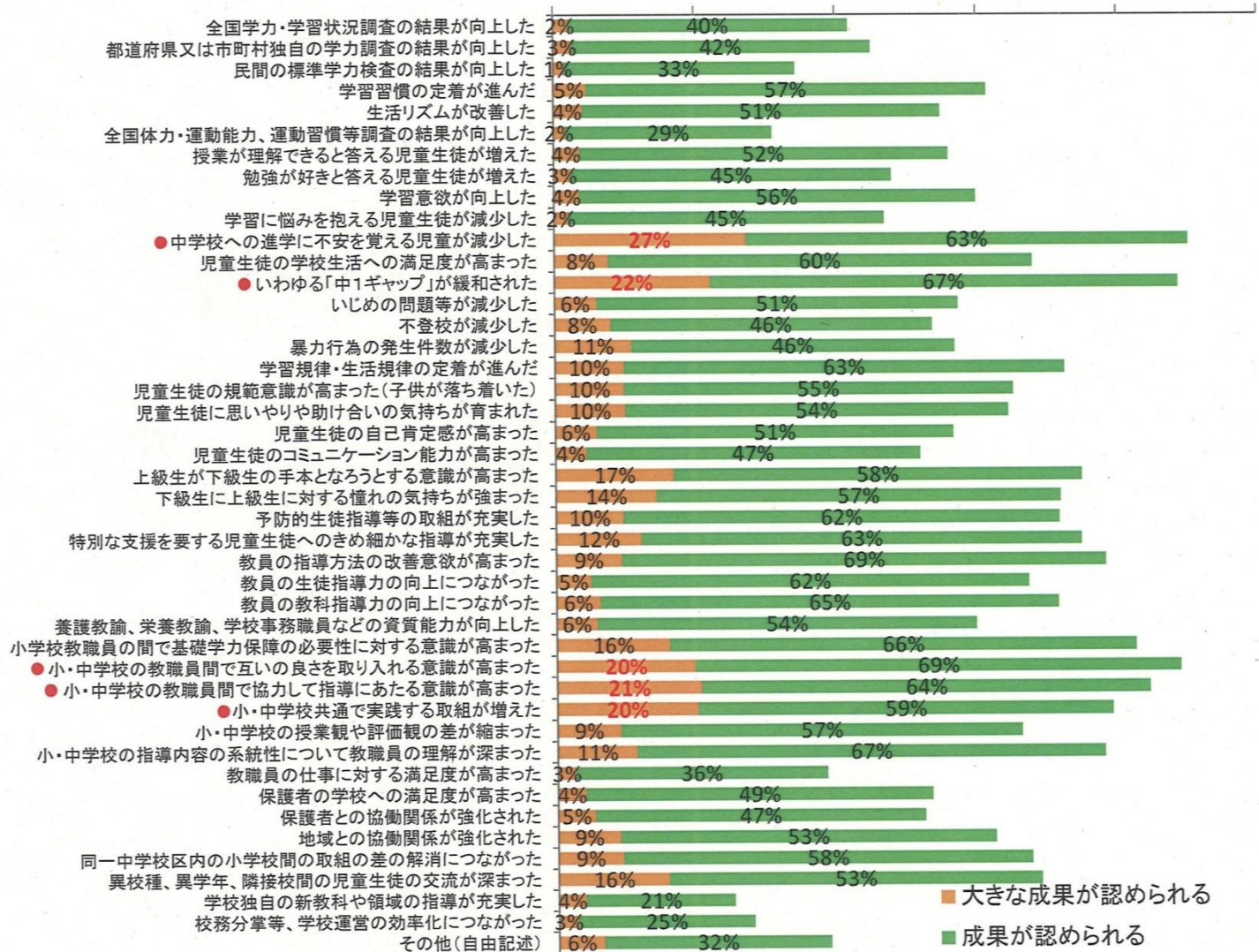
施設形態 × 小中一貫教育の成果

総合評価



■ 大きな成果あり ■ 成果あり

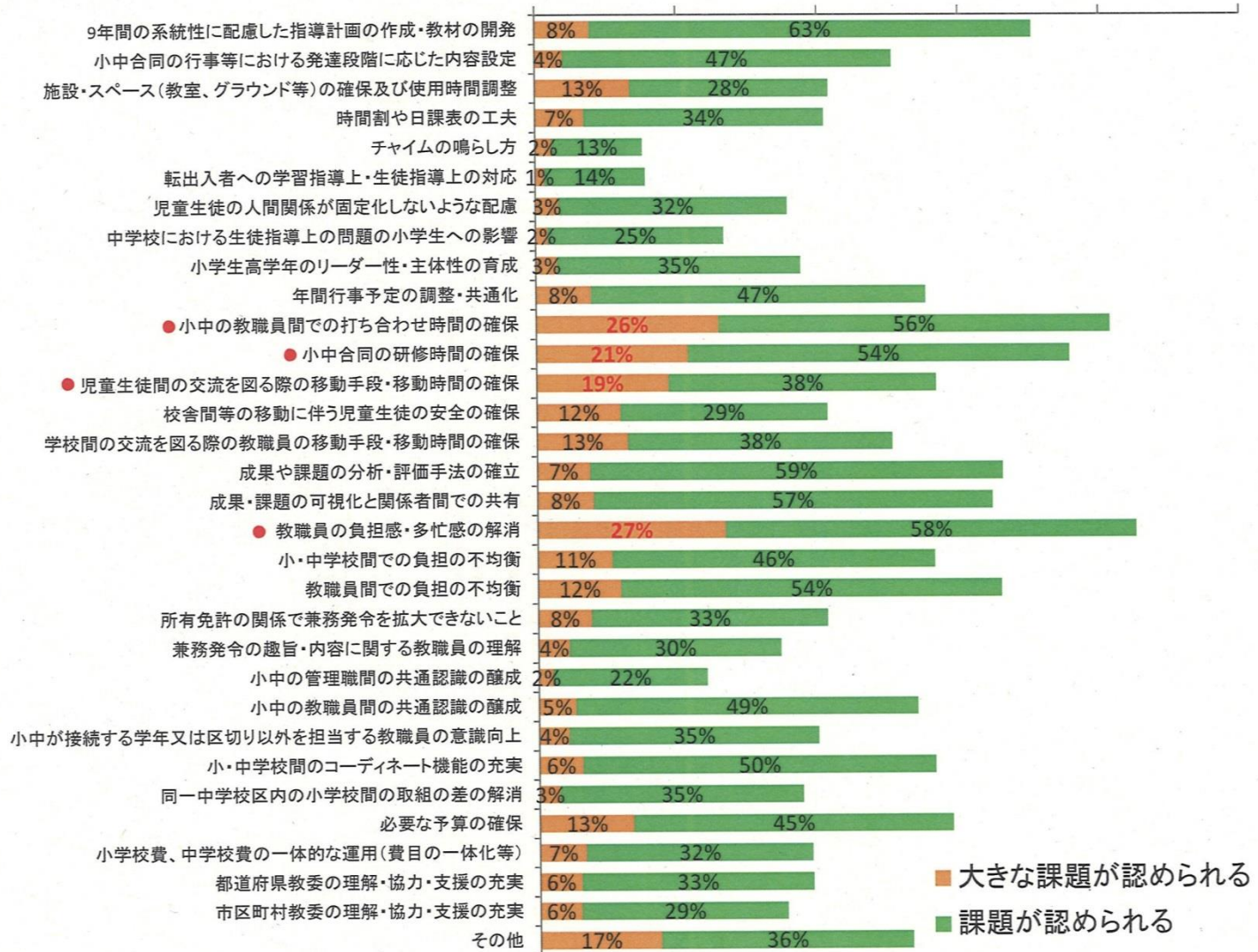
小中一貫教育の成果



N=1130(小中一貫教育実施件数)

※「大きな成果が認められる」の回答が特に多い項目については●で示している。

小中一貫教育の課題



N=1130(小中一貫教育実施件数)

※「大きな課題が認められる」の回答が特に多い項目については●で示している。

小中一貫校のメリット・デメリット

～メリット～

- 9年間を見通した目標設定と学習指導
- 9年間を見通した生徒に合わせた指導
- 小学生と中学生の異年齢交流
- 教職員の指導方法改善

～デメリット～

- 小学校高学年のリーダー機会の減少
- 通学距離が遠くなる
- 転校、私立中学校進学への対応
- 教職員の多忙化

小中一貫校の開校時期

基本構想・基本計画

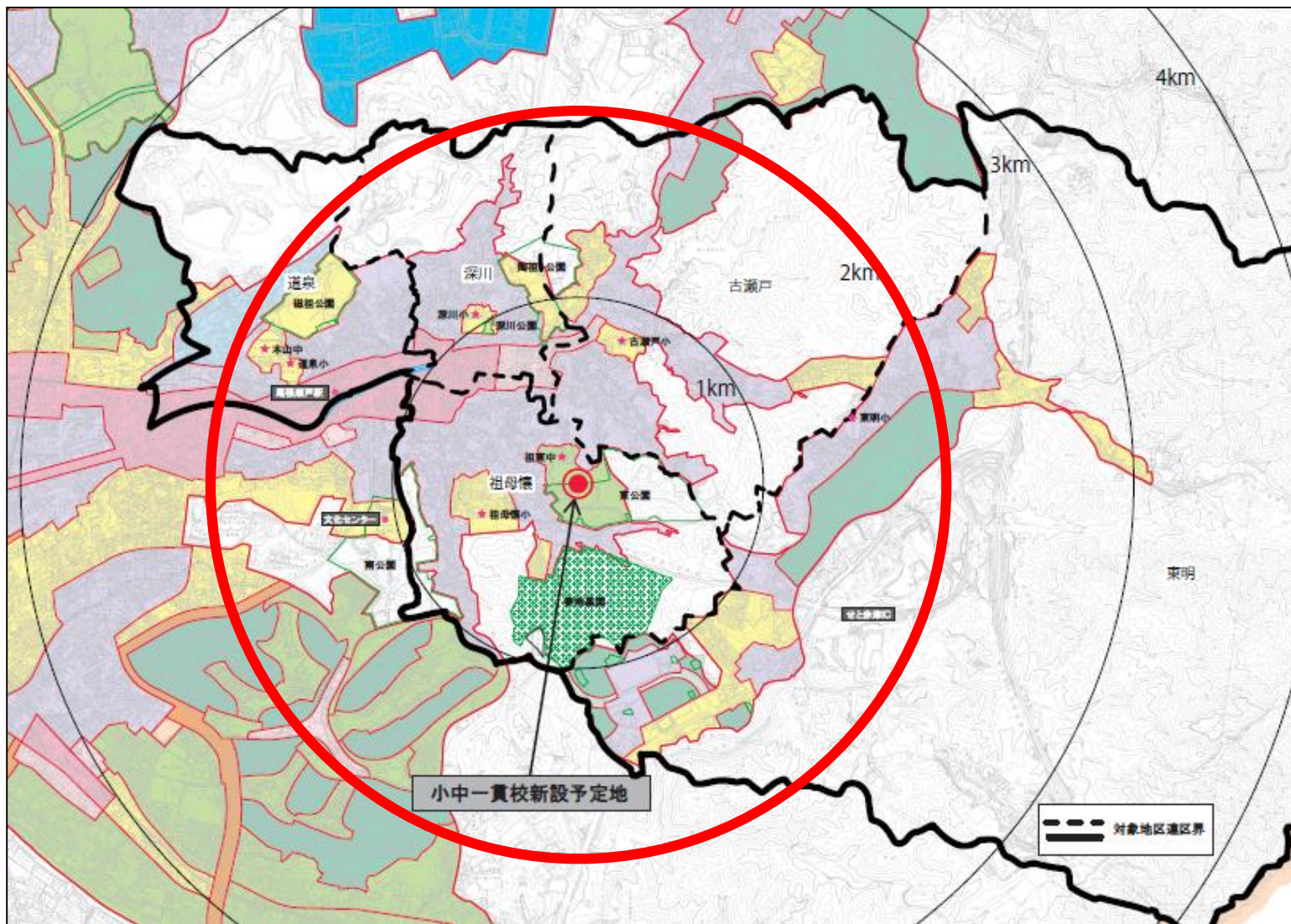
基本設計・実施設計

造成工事

建築工事

平成32年(2020年)4月開校を目指しています

小中一貫校新設予定地(位置図)



小中一貫校新設予定地(航空写真)



どういった小中一貫教育をするの？ (イメージ)



9年間を見通した連続性・系統性に配慮した学習指導を充実します



9年間を見通した個々の子どもに応じた指導や見守りを行います



小学校高学年から一部中学校の専門教科の教員が乗り入れ授業を行います

どういった小中一貫校を作るの？ (外観イメージ)

職員室から
全体を見渡せ
る校舎

渡り廊下など、
小中学生区分
と交流導線

体格差や学年
区切りに応じた
校舎



どういった小中一貫校を作るの？ (教室イメージ)

木の温もりが
感じられる教室
や廊下

可動式の間仕
切り、教室と廊
下の一体使用

小学校1年生か
ら連続した英語
教育の実施



どういった小中一貫校を作るの？ （交流スペースのイメージ）

交流できる図書室、
休日は地域図書館
として開放

学校給食の自校
調理と交流スペース
での異学年給食

地域の方々に直
接指導をいただき
郷土学習



どういった小中一貫校を作るの？ (屋外イメージ)

階段を設けて、
児童生徒が
発表を行う場

小学校前期を
対象とした
芝生広場

田植えを実践
するなど、体験
型教育実践



通学の安全は、どう確保するの？ (バスのイメージ)

安心・安全な通
学路の確保

スクールバスの
運行

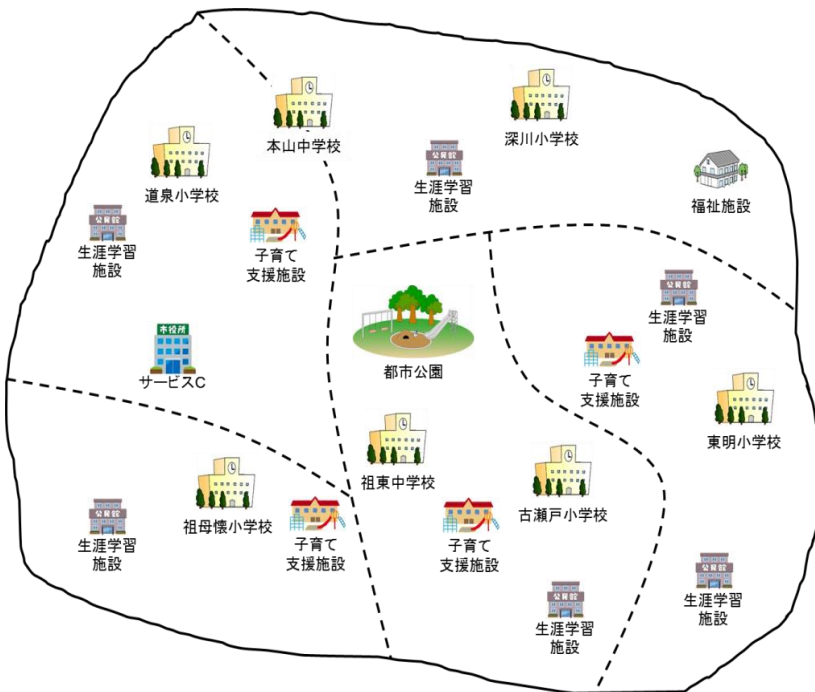
子どもを安全に
送迎するサポー
ター等の配置



学校跡地を核としたまちづくりへの取り組み

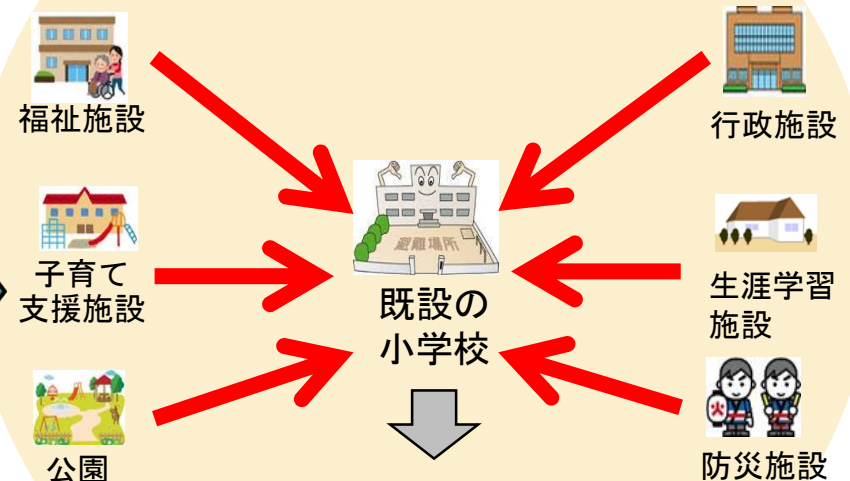
これまでは……

1機能1施設型



これからのまちづくり……

機能を減らさず複合型へ転換



地域コミュニティの
拠点へと進化